

私は今回、東大見学会・企業 大学訪問ガイダンスに参加してきました。なぜ参加したのかというと、このような貴重で素晴らしい体験はもう二度とすることがないと思いこのチャンスは絶対に逃さないと考えたからです。国際エネルギー機関 (IEA) の事務局長と歴任した田中仲男様をはじめとする笹川平和財団の皆様や一橋大学経済研究所の北村行伸教授との面会、日本最難関である東京大学に進学された OB・OG との懇談会は今回の私の人生で最初で最後の経験だったと思うので、そのような体験をすることができ、多大なる感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

世界を股に掛け、多くの外国人と交流し、会議などに御出席された田中仲男様とはどのような人なのか、日本の文系トップの大学である一橋大学の北村行伸様とはどのように人生を歩んで来たのか、東大に見事入学された OB・OG の方はどうやって合格を勝ち取ったのかなど様々な興味・関心・疑問が湧いてきて、それらを少しでも解決してみたいという思いもあり、参加を希望しました。

笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォース共催・夏季プログラムについてです。

一般人である私達とはほぼ無縁の国際会議場での討論・さらにはテレビニュースや新聞などで名前を見かける程度の方々と直接向かって話をするということで自分自身かなり緊張していました。ですが、穏やかで素晴らしい雰囲気の中で財団とディレクトフォースの方々が話しかけてくれ、徐々に緊張は緩んでいきました。最初はエネルギーの番犬とも言われる IEA の事務局長を歴任した田中仲男様の話から始まりました。

スピーチは非の打ちどころのない素晴らしいものでとても勉強になりました。日本や世界でも原子力発電をこれからも続けていくのかいかなのか賛否両論ですが先生の話聞いて止めたけれど止められない事情を知り、深く考えさせられました。

そこで日本はどうして行くべきかについては、世界一厳しい基準を設け、原子力を除々に再稼働していくべきだと言っていました。また、ゴミを減らせるように小型の施設をつくるように次はこれだという方針を決め国々に説明していき、議論を重ねて実証してみる。実際はよくわからないので調査してみることが大切だとも言っていました。

第 1 クールの前川美湖さんの話でした。前川さんは現在海洋政策研究所や海洋研究調査部・海洋政策チーム主任研究員として活動されており主な担当事業は海洋生物多様性保全と利用の研究ノ島と周辺地域で (IO ネット推進) です。地球の海と陸の比率は 7 : 3 で陸上生物は 250 万種なのに海洋生物はまだ 20 万種しか見つかっていないという事実を知って

一番驚きました。なので、海にはまだまだ知られていないことが数多くあるようで、とても気になりました。公海には条約はないようで、その公海内の海洋生物をどう守るか、またどのように利用していくかのバランスが人類の課題のようです。海洋生物の遺伝を調べどう人間に生かしていくかということも問題であるそうです。

国際的なそれらの利用法に関する様々な決まりをつくる必要があるそうです。

質問をした際には高校生のように前述したように海に興味を持ったようです。また、自分の軸があり比較対象として外国語があるわけだから英語を勉強してほしいと強く言われました。「日本はどんな国？」のような質問をよくされるようで、日本人としてもっと日本を知っておくべきだそうです。マイクロブ

ラスチックというものは自分が捨てたもので、それが自分に害になって帰ってくることを忘れないでいてほしいといくことでした。第2クールは守屋雅夫さんの話でした。講義テーマは「人間と社会」食を通して考える学ぶことの意義についてでした。食品開発は食品の中身だけでなく設備や機械などの総合力のことを言うそうです。日本の栄養基準はピカ1、津々浦々だそうで日本の栄養学が遅れているかを考えるのではなく自分が何をできるかを考えるべきだそうです。

食べ物はその国の文化・歴史を反映しているので今の安全基準を変えるわけにはいかないそうです。正確に情報を取得する必要もあるそうで、日本のマスコミは日本の残留農薬の話を取り上げないで中国などの話ばかりを取り上げている。まずは、日本は本当は異常だと思うこと。大根は地下にあるのにスーパーに置かれているものには虫一匹たりともついていない。これは農薬を大いに使っているなよりの証拠だそうです。自分はこの話を聞いてとても納得しました。だからこそ正確なデータを自分で調べて行くことが必要だと感じました。前川さんと違ったところは英語を話せなくてもいいということです。

標準語は英語ですが、それよりも人間力・信頼される人間になりなさいということだそうです。何度失敗しても大丈夫、その度に壁を乗り越えていけばいい、その壁に対して逃げるのが大切だそうです。また、何で失敗をしたのかを考える、人に良く見られるように振る舞う、逃げたらいけない、その場その場で全力投球してこいだそうです。最後はとても力のこもったお話ありがとうございました。第3クールは大久保郁子さんのお話でした。

現在はソーシャルイノベーション本部国際協力チームに所属し、主な担当事業としてはフィリピン残留日本人二世の国籍回復事業・日系スカラシップ、平和大学における平和構築のアジア人専門家の育成です。まず驚いたのは中国以外のフィリピンにも残留日本人がいるということです。若いから、経験ないからという気持ちよりも何とかなるっしょという感じでやっているそうです。また、知識が先になくてもそれを付けながら同時進行していくのが大事だそうです。失敗したときは、次どうすればよいか、反省・改善点を考えて日記付けしているそうです。あと、時間がとれないようで、上手くそこは考えてやっていくしかないようです。第4クールは吉田文一さんの話でした。吉田さんの講義テーマは「真の国祭人とは」、「日本はどんな国」についてでした。日本と欧米の両方のビジネスを理解することが大切だそうです。グローバル化している中で何が重要かという質問に対しては自分の個性、主体性を持つことだそうです。日本人として主体性を持つことがとても重要であるように「日本人とは何ですか?」「日本の文化って何ですか?」と聞かれたときに答えられない日本人が多いようです。私も唐突にそれを外国人に聞かれたときに即答できるかは定かではありません。これは日本人の関心がない・勉強不足が原因であるようです。また、人間としてどうか、あなたは信頼される人であるか・尊敬される人であるかという「人となり」がとても大切であるそうです。日本人は誠実で勤勉で正直で責任感があって、清潔感がある、だが外国人には日本人ほどなく、とても残念であるということです。

一方、日本人は集団依存度が高く、リーダーシップがないとのこと。もっと積極的にいくべきだとの意見もありました。「国際人になるためには日本人であれ」ということも言っていました。守屋さんと同じように、情報を自分から取りにいくのが大切だそうです。最後に吉田さんの四本柱をまとめると、人間としての人となり・他人から信頼され尊敬される人になること・日本人としての主体性をしっかりと持つこと・異文化理解に努めること・英語をしっかりと勉強することが重要であるそうです。

OB・OG 懇談会についてです。

東大生ということもあり、かなりオーラを感じ少々ぞくぞくとした状態で話し合いが始まりました。自分が学んだことを列挙すると、数学が得意なのは大学受験に大いに生きてくること、国語に関しては古典では分からない単語をノートにまとめるなどして蓄積し、語法を学び、現代文は自分のつまずくところをよく理解し、改善していくことが大切、数学は演習を積む、英語は1年生の内に大体理解して分からないところを理解しといた方がいい、リスニングは「慣れ」だから毎日何かした方がいい、行きたい大学を早い内に決める・生活習慣は大事・ゆるく考え気楽にいく、将来の何か一つ目標を決めてそこに向かっていく、合格までの道筋を想像する、得意科目をつくるのではなく苦手科目をつくらない、効率的に勉強しろ、自分のできないところだけやっつけてずるがしこくいこう、己をつらぬける人になれ・とりあえず東大を目指せということです。

一橋大学の北村教授の話からも学べることは数多く、とても勉強になりました。ありがとうございました。今回の活動を終えて偉大な方々とお話した達成感と未知のこと、自分にとってとてもプラスになることを学べた充実感に満ちあふれています。自分が得たことを一つも無駄にせず、今すぐから行動に移し、活かしていきたいと思います。自分にとってかけがえのない時間でした。あっという間でしたがありがとうございました。